

仕 様 書

1. 契約件名

北海道運輸局管轄運輸支局自家用電気工作物保安管理業務委託契約

2. 履行場所

別紙のとおり

3. 契約期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

4. 目 的

北海道運輸局管轄運輸支局に設置する自家用電気工作物の電気事故を未然に防止すると共に施設の正常な維持管理を行うことを目的とする。

5. 電気施設の概要

別紙のとおり

6. 業務仕様

北海道運輸局管轄支局に設置している自家用電気工作物の保安管理業務を以下の要領で実施するものとする。

- (1) 点検頻度は別紙のとおりとする。
- (2) 札幌運輸支局、函館運輸支局、室蘭運輸支局、帯広運輸支局については停電年次点検を実施すること。
- (3) 室蘭運輸支局については年次点検時に「キュービクル内清掃」についても併せて実施すること。
- (4) 点検等実施にあたっては「保安規程」及び「主任技術者制度の解釈及び運用（内規）」に示された要件により行うこと。
- (5) 点検の結果、技術基準に不適合又は不適合のおそれがあると判断した場合は、修理改造等について指示又は助言を行うこと。
- (6) 事故故障発生時には次の処置を行うこと。
 - ① 事故故障発生連絡を受けた際には、現状の確認、送電停止、電気工作物切り離し等に関する指示を行うこと。
 - ② 状況に応じて臨時検査を行うこと。
 - ③ 原因判明後、再発防止のための対策について発注者に、指示・助言を行うこと。
 - ④ 各種法令に基づく事故報告を行う必要がある場合、報告するよう発注者に指示を行うこと。

7. その他

この仕様書に定めのない事項については、発注者及び発注者の選任する監督職員の指示によること。

別紙

自家用電気工作物保安管理業務委託仕様一覧

事業場名称	札幌運輸支局	函館運輸支局	旭川運輸支局	室蘭運輸支局	釧路運輸支局	帯広運輸支局	北見運輸支局	
事業場所在地	札幌市東区 北28条東1丁目	函館市西桔梗 555-24	旭川市春光町 10番地1	室蘭市日の出町 3丁目4-9	釧路市鳥取大通 6丁目2-13	帯広市西19条 北1丁目8-4	北見市 東三輪3丁目 23-2	
設備内容	設備容量 (KVA)	400	175	125	150	70	200	175
	受電電圧 (KV)	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6
点検頻度	月次点検	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回
	年次点検	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回
	設備、改造等工事期間中	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回
	臨時	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度
分担比率 (国/法人)	28/72	27/73	24/76	24/76	98/2	21/79	21/79	

- 点検の内容等については以下のとおり定める。
- ・ 101KVA以上の電気工作物保安管理は毎月点検とする。
ただし、絶縁監視装置設置機器については隔月点検とする。
 - ・ 絶縁監視装置を設置可能な電気工作物には監視装置を設置すること。
なお、絶縁監視装置設置撤去等に係る費用は受託者の負担とする。

自家用電気工作物保安規程

制定年月日：平成22年4月1日

変更年月日：平成22年12月1日（函館運輸支局の需要設備）

変更年月日：平成23年3月1日（帯広運輸支局の需要設備）

変更年月日：令和3年4月1日（函館運輸支局の需要設備）

設置者名	国土交通省北海道運輸局
事業場の名称 及び所在地	別紙「自家用電気工作物保安管理業務仕様一覧」のとおり
需要設備	別紙「自家用電気工作物保安管理業務仕様一覧」のとおり

別紙

自家用電気工作物保安管理業務請負仕様一覧

事業場名称	札幌運輸支局	函館運輸支局	旭川運輸支局	室蘭運輸支局	釧路運輸支局	帯広運輸支局	北見運輸支局	
事業場所在地	札幌市東区 北28条東1丁目	函館市西桔梗 555-24	旭川市春光町 10番地1	室蘭市日の出町 3丁目4-9	釧路市鳥取大通 6丁目2-13	帯広市西19条 北1丁目8-4	北見市 東三輪3丁目 23-2	
設備内容	設備容量 (KVA)	400	175	125	150	70	200	175
	受電電圧 (KV)	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6
	監視装置	絶縁監視装置	絶縁監視装置	絶縁監視装置	絶縁監視装置		絶縁監視装置	絶縁監視装置
点検頻度	月次点検	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回	隔月 1回
	年次点検	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回	毎年 1回
	設備、改造等工事期間中	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回	毎週 1回
	臨時	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度	必要の都度

- 点検の内容等については以下のとおり定める。
- ・ 10KVA以上の電気工作物保安管理は毎月点検とする。
ただし、絶縁監視装置設置機器については隔月点検とする。
 - ・ 絶縁監視装置を設置可能な電気工作物には監視装置を設置すること。
なお、絶縁監視装置設置に係る費用は受託者の負担とする。

第1章 総則

(目的)

第1条 北海道運輸局管内運輸支局（以下「運輸支局」という。）における電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安を確保するため、電気事業法第42条第1項の規定に基づきこの規程を定める。

(法令及び規程の遵守)

第2条 国土交通省北海道運輸局（以下「北海道運輸局」という。）、保安管理業務に従事する者（以下「従事者」という。）および保安管理業務を請け負う者（以下「請負者」という。）は電気関係法令及びこの規程を遵守するものとする。

(細則の制定)

第3条 この規程を実施するため必要と認める場合には、別に細則を制定するものとする。

(規程の改正等)

第4条 この規程の改正又は前条に定める細則の制定又は改正にあたっては請負者と協議の上、これを決定するものとする。

第2章 保安業務の管理運営体制

(保安管理業務の管理)

第5条 運輸支局の保安管理業務は北海道運輸局の選任する監督職員が統括管理するものとする。

(保安管理業務の実施)

第6条 電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安管理業務の実施については北海道運輸局及び請負者間の契約によって定めるものとする。契約に定める事項は、この規程の定めるところによるものの他次の各号について定めておくものとする。

- (イ) 保安管理業務を実施する者（以下「保安業務担当者」という。）の請負者からの派遣に関すること。
- (ロ) 保安業務担当者の執務に関すること。
- (ハ) 保安業務担当者が行なうところの職務について北海道運輸局側組織と請負者側組織との連絡、報告、調整に関すること。
- (ニ) 北海道運輸局と請負者との間における連絡に関すること。
- (ホ) 保安規程の遵守に関すること。

(保安業務担当者の職務)

第7条 保安業務担当者の職務は次の事項について行なうものとする。

- (イ) 電気工作物に係る保安教育に関すること。
- (ロ) 電気工作物の工事に関すること。
- (ハ) 電気工作物の保守に関すること。
- (ニ) 電気工作物の運転操作に関すること。
- (ホ) 電気工作物の災害対策に関すること。
- (ヘ) 保安業務の記録に関すること。
- (ト) 保安用器材及び書類の整備に関すること。

2 保安業務担当者は、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務を誠実に行なわなければならない。

(設置者の義務)

第8条 電気工作物に関する保安上重要な事項を決定又は行おうとするときは、請負者の意見を求めるものとする。

2 請負者の電気工作物に係る保安に関する意見を尊重し、請負者から指導、助言を受けた事項、及び請負者と協議した保安に関する事項については、速やかに必要な措置をとるものとする。

3 法令に基づいて関係官庁に提出する書類の内容が電気工作物に係る保安に係る関係ある場合には、

その作成及び手続きについて請負者の指導、助言を求めるとする。

4 関係官庁が法令に基づいて行う検査・審査には、請負者を立ち合わせるものとする。

(連絡責任者)

第9条 保安全管理業務のために必要な事項を請負者に連絡する責任者（以下「連絡責任者」という。）

を定め、その氏名、連絡方法等を請負者に通知するものとする。

2 前項の連絡責任者に事故がある場合は、その業務を代行させるための代務者を定め、その氏名、連絡方法等を請負者に遅滞なく通知するものとする。

3 前各項に変更が生じた場合は、ただちに請負者に通知するものとする。

(従事者の義務)

第10条 従事者は、請負者がその保安のために行う指導、助言を受けるものとする。

第3章 保安教育

(保安教育)

第11条 従事者に対し、電気工作物の保安に関し必要な知識及び技能の教育を行うものとする。

(保安に関する訓練)

第12条 従事者に対し、災害その他電気故障が発生したときの措置について必要に応じ実地指導訓練を行うものとする。

第4章 工事の計画及び実施

(工事計画)

第13条 電気工作物の設置又は変更、修理及び廃止に伴う工事計画を立案するにあたっては、その保安に関し、請負者の意見を求めるものとする。

(工事の実施)

第14条 電気工作物の工事の実施にあたっては、別表1のとおり請負者に工事期間中の巡視及び点検を行わせ、完成した場合には請負者に検査または他者が実施する測定・試験についての指導及び助言を行わせて、計画どおりに施工されていることおよび経済産業省で定める技術基準（以下「技術基準」という。）に適合し、保安上支障がないことを確認するものとする。

2 電気工作物の工事を他者に行わせる場合には、工事施工前に責任の所在を明確にしておくものとする。

第5章 巡視、点検及び測定・試験

(維持及び運用に関する巡視、点検及び測定・試験)

第15条 電気工作物の維持及び運用に関する保安のための巡視、点検および測定・試験は別表2のとおりとし、それ以外のものにあつては、請負者と協議したところにより行うものとする。

2 請負者が行う前項の巡視、点検及び検査の業務に関する計画の策定及び実施については協力するものとする。

(技術基準に適合しない場合等の措置)

第16条 巡視、点検又は検査により技術基準への適合性を確認した結果、不適合又は不適合のおそれがあると判断された場合は、請負者に技術基準に適合するようにするためにとるべき措置の指導、助言及びその措置を取らなかった場合に生じると考えられる結果の報告を求め、速やかに当該電気工作物を修理し、改造し、移設し又はその使用を一時停止もしくは制限する等の措置を講じ常に技術基準に適合するよう維持するものとする。

(事故・故障発生時の処置と再発防止)

第17条 電気工作物に事故・故障が発生した場合又は発生するおそれがある場合は、請負者その他の関係先に連絡又は報告し、請負者に適切な指導、助言を求めるものとする。

2 送電停止又は電子工作物の切り離しなどの措置をとる場合は、現状を確認するとともに、請負

者の指導、助言のもで行うものとする。

- 3 事故・故障が発生した場合は、必要に応じ請負者の臨時点検を受け、事故原因が判明した場合には、請負者に指導、助言を求め、事故等を再発させない対策について適切な措置をとるものとする。
- 4 低圧電路の絶縁状態を監視する装置（以下「低圧絶縁監視装置」という。）を用いる場合は、警報発生した時の発生原因の調査を請負者に求め、事故を再発させない対策について適切な措置をとるものとする。
- 5 電気関係報告規則に基づく事故報告を行う必要がある場合は、請負者に指導、助言を求めるものとする。

第6章 運転又は操作

（運転又は操作）

- 第18条 平常時及び事故その他の異常時における開閉器、遮断器及びその他必要とする機器の運転又は操作については、請負者に意見を求めあらかじめ定めておくものとする。
- 2 前条第1項の報告又は連絡すべき事項及び連絡経路は受電室の見やすい場所に掲示しておくものとする。
 - 3 受電設備を休止する場合、又は休止中から運転開始する場合は、事前に請負者へ連絡し所定の点検を実施する等、設備の安全を確認後、その操作を行うものとする。

第7章 災害対策

（防災体制）

- 第19条 北海道運輸局は非常災害その他の災害にそなえて、電気工作物の保安を確保するために適切な措置をとることができるような体制を整備しておくものとする。

（災害時の措置）

- 第20条 災害が発生した場合には、速やかに請負者に連絡し、その指導、助言を受けるものとする。
- 2 災害の発生に伴い、電気工作物の使用が危険と認められる場合には、連絡責任者は、ただちに当該範囲の電源停止をすることができるものとする。

第8章 記録

（記録の保存）

- 第21条 電気工作物の工事、維持及び運用に関する記録は次の記録は3年間保存するものとする。
- (1) 巡視、点検及び検査の記録
 - (2) 電気事故に関する記録
- 2 前項によらない記録は必要な期間保存するものとする。

第9章 責任の分界

（責任の分界）

- 第22条 電気事業者の設置する電気工作物との保安上の責任分界点は、需要場所における北海道運輸局の施設した第1号柱上の開閉器電源側接続点と電気事業者の架空引込線の接続点とする。

（需要設備の構内配置）

- 第23条 需要設備の構内は運輸支局に備え付ける図面のとおりとする。

第10章 整備その他

（危険の表示）

- 第24条 受電室その他高圧電気工作物が設置されている場所であって、危険の恐れのあるところには、人の注意を喚起するよう表示を設けるものとする。

(備品等の整備)

第25条 電気工作物の保安上必要とする備品、材料、消耗品及び交換部品等は、請負者に意見を求め整備し、これを適正に保管するものとする。

(設計図面類の整備)

第26条 電気工作物に関する設計図、仕様書、取扱説明書等については、必要な期間整備保存するものとする。

(手続き書類等の整備)

第27条 関係官庁、電気事業者等に提出した書類及び図面その他の主要文書については、その写しを必要な期間整備保存するものとする。

附則 この規程は平成22年4月1日から施行する。

別表 1

工事に関する巡視、点検および測定・試験の基準

1 工事期間中の巡視、点検および竣工検査

設	備	点 検 項 目	工事期間中の 巡視、点検	竣工検査
引込設備	区分開閉器、引込線、支持物、ケーブル等	外観点検 絶縁抵抗測定 継電器の動作特性試験 開閉器と継電器の連動試験 絶縁耐力試験	○	○ ○ ○ ○ ○
受電設備	断路器、電力用ヒューズ、遮断器、高圧負荷開閉器、変圧器、コンデンサ、リアクトル、避雷器、計器用変成器及び母線等	外観点検 絶縁抵抗測定 継電器の動作特性試験 遮断機、開閉器と継電器の連動試験 絶縁耐力試験	○	○ ○ ○ ○ ○
受・配電盤		外観点検 シーケンス試験	○	○ ○
接地工事	接地線、保護管等	外観点検 接地抵抗測定	○	○ ○
構造物	受電室建物、キュービクル式受・変電設備の金属製外箱等	外観点検	○	○
配電設備	電線路	引込設備に準じる	○	○
発電設備 (非常用予備発電装置を含む)	原動機、発電機、始動装置等 風車、支持工作物 太陽電池発電所 燃料電池発電所	外観点検 始動・停止試験 絶縁抵抗測定 保護継電器の動作特性試験 絶縁耐力試験 インターロック試験 負荷試験	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
蓄電池設備	蓄電池、充電装置及び付属装置	外観点検 電圧測定 比重測定 温度測定	○	○ ○ ○ ○
負荷設備	配線、配線器具等	外観点検 絶縁抵抗測定	○	○ ○
配電線路	電線路、電源供給器等	外観点検 絶縁抵抗測定		○ ○

注 1 ○印は、各点検項目の該当項目を示し、設備のある場合に適用する。

注 2 発電設備試験の実施については、保安協会と協議する。

2 点検および測定・試験の周期

区 分	点検の種別	周 期
需要設備	工事期間中の巡視、点検	毎週 1 回
燃料電池発電所	竣工検査	工事完了後
水力発電所		
太陽電池発電所	竣工検査	工事完了後
風力発電所		
配電線路を管理する事業場		

注 工事期間中の巡視および点検は、工事行程に合わせ実施する。

維持および運用に関する巡視、点検および測定・試験の基準（需要設備）

1 定期点検

設 備	点 検 項 目	定 期 点 検		
		月次点検	年 次 点 検	
			A点検	B点検
引込設備	区分開閉器 外観点検 絶縁抵抗測定 継電器の動作試験 継電器の動作特性試験 開閉器と継電器の連動試験	○	○	○
			○	□
		○	●	
		○ * 1	◎	
		○	●	
受電設備	引込線、支持物、ケーブル等	○	○	○
			○	□
	断路器	○	○	○
			○	□
	電力用ヒューズ	○	○	○
			○	□
	遮断機、負荷開閉器	○	○	○
			○	□
			○	●
			○ * 1	◎
変圧器	○	○	○	
		○	□	
		6年に1回	6年に1回	
		6年に1回	6年に1回	
コンデンサー、リアクトル	○	○	○	
		○	□	
計器用変成器、零相変流器	○	○	○	
		○	□	
避雷器	○	○	○	
		○	□	
母線等	○	○	○	
		○	□	
その他の高圧機器	○	○	○	
		○	□	
受・配電盤	配電盤、制御回路 外観点検 電圧値、電流値の測定 絶縁抵抗測定 シーケンス試験	○	○	○
		○	○	□
			○	◎
低圧絶縁監視装置	装置の点検（電送試験を含む） 許容誤差試験	○	○	○
			○	○

設 備	点 検 項 目	定 期 点 検			
		月次点検	年 次 点 検		
			A点検	B点検	
接地工事	接地線、保護管等	外観点検	○	○	○
		接地抵抗測定		○	○
		漏えい電流測定	○		
構造物	受電室建物、キュービクル式受・変電設備の金属製外箱等	外観点検	○	○	○
配電備	電線路	外観点検	○	○	○
		絶縁抵抗測定		○	□
負荷設備	低圧機器	外観点検	○	○	○
		絶縁抵抗測定		○	■
	低圧配線、制御配線	外観点検	○	○	○
		絶縁抵抗測定		○	■
開閉器	外観点検	○	○	○	
	絶縁抵抗測定		○	■	
遮断器	外観点検	○	○	○	
	絶縁抵抗測定		○	■	
非常用予備発電装置	原動機、始動装置および付属装置	外観点検	○	○	○
		始動・停止試験	○	○	○
		保護継電器の動作試験		○	◎
遮断器、開閉器、配電盤、制御装置等	発電機および励磁装置	外観点検	○	○	○
		接地抵抗測定		○	○
		外観点検	○	○	○
蓄電池設備	蓄電池	電圧測定	○		
		比重測定		○	○
		液温測定		○	○
充電装置および付属装置	充電装置および付属装置	外観点検	○	○	○
		絶縁抵抗測定		○	○
構造物等	構造物等	外観点検	○	○	○

注 1 ○印は各点検項目の該当項目を示し、設備のある場合に適用する。

2 「月次点検」とは、設備が運転中の状態において点検を実施するものをいい、「年次点検」とは、主として停電により設備を停止状態にして点検を実施するものをいう。

また、毎年停電して行う年次点検を「A点検」、3年のうち1回を停電して行い、残り2回を運転状態で行う年次点検を「B点検」という。

3 「外観点検」とは、次に掲げる項目について目視や測定器具等を用いて異常の有無を判定することをいう。

- (1) 電気工作物の異音、異臭、損傷、汚損等の有無の確認
- (2) 電線と他物との離隔距離の適否の確認
- (3) 機械器具、配線の取付け状態および過熱の有無の確認
- (4) 接地線等の保安装置の取付け状態の確認

4 電気工作物の設置状態により点検項目の一部又は全部を省略することがある。

- (1) 引込施設の絶縁抵抗測定は、停電範囲により実施できないことがある。
- (2) 絶縁油の酸価度試験および絶縁破壊電圧試験は、PCB油混入のおそれがある場合、絶縁破壊電圧試験を水分試験に替えることがある又は全部を省略することがある。
- (3) 変圧器の二次側より配電盤の主開閉器電源側の絶縁抵抗測定は、当該電路の接地線の取外しが困難な場合、漏えい電流測定に替えることがある。

5 各点検項目は、機器ごとの信頼性ならびに点検項目と同等と認められる手法によって確認した場合は、当該点検の一部に替えることがある。

- (1) ■印を付した負荷設備の絶縁抵抗測定は、低圧電路の絶縁状態を監視する「低圧絶縁監視装置」を用いる場合、その監視により当該点検に替えることがある又は低圧設備の設置条件により省略することがある。
- (2) □印を付した引込設備、受電設備、および配電設備の絶縁抵抗測定は、機器ごとの信頼性により、3年に2回以内の範囲において部分放電検出等による「絶縁診断測定」に替えることがある。
- (3) ●印を付した受電設備の継電器の動作試験および開閉器と継電器の連動試験は、機器ごとの信頼性により、3年に2回以内の範囲において「制御回路点検」および「保護継電器単体試験」に替えることがある。
- (4) *1印を付した継電器の動作特性試験は、信頼性の高い場合（前回までの年次点検における動作特性試験および経年劣化を総合的に分析確認して異常がないもの）は、3年に2回以内の範囲において、継電器の動作試験および開閉器と継電器の連動試験に替えることがある。
- (5) ◎印を付した各点検項目は、3年に1回停電して行う年次点検時において実施するものをいう。

2 臨時点検

電気工作物に事故・故障が発生した場合は又は発生するおそれがある場合は、その都度点検および測定・試験を行う。

3 点検および測定・試験の周期

区 分	点検の種別	周 期
需 要 設 備	月次点検 年次点検 臨時点検	自家用電気工作物保安管理 業務仕様一覧のとおり

注 区分開閉器を開放して休止する設備にあつては、その休止期間中の月次点検を実施しないことがある。

経 済 産 業 省

20130107商局第2号
平成25年1月28日

改正 20130619商局第1号
平成25年6月28日

改正 20130920商局第1号
平成25年9月27日

改正 20140320商局第1号
平成26年3月31日

改正 20140324商局第1号
平成26年3月31日

改正 20140925商局第2号
平成26年9月30日

改正 20150406商局第5号
平成27年4月23日

改正 20160301商局第1号
平成28年3月22日

改正 20160330商局第2号
平成28年4月1日

改正 20161005商局第2号
平成28年10月25日

改正 20161208商局第1号
平成28年12月26日

改正 20170809保局第2号
平成29年8月24日

主任技術者制度の解釈及び運用（内規）

電気事業法（昭和39年法律第170号。以下「法」という。）第43条第1項の選任、法第43条第2項の許可、法第43条第4項の職務、電気事業法施行規則（平成7年通商産業省令第77号。以下「規則」という。）第52条第1項の表第6号に掲げる事業場又は設備に行う主任技術者の選任、規則第52条第2項の承認、規則第52条第3項の承認及び規則第52条第4項ただし書の承認について、下記のとおり解釈及び運用方針を定め運用することとする。

なお、当該規定の解釈はこの内規に限定されるものではなく、法及び規則に照らして十分な保安水準の確保ができる根拠があれば、当該規定に適合するものと判断する。

記

1. 法第43条第1項の選任については、次のとおり解釈する。

(1) 法第43条第1項の選任において、規則第52条第1項の規定に従って選任される主任技術者は、原則として、事業用電気工作物を設置する者（以下1.において「設置者」という。）又はその役員若しくは従業員でなければならない。ただし、自家用電気工作物については、次のいずれかの要件を満たす者から選任する場合は、この限りでない。

① 労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（昭和60年法律第88号）第2条第2号に規定する派遣労働者であって、選任する事業場に常時勤務する者（規則第52条第4項ただし書の承認において、この内規6.に従って兼任を承認される場合は、いずれかの事業場に常時勤務する者。）。ただし、同法第26条に基づく労働者派遣契約において次のイからハまでに掲げる事項が全て約されている場合に限る。

イ 設置者は、自家用電気工作物の工事、維持及び運用の保安を確保するにあたり、主任技術者として選任する者の意見を尊重すること。

ロ 自家用電気工作物の工事、維持及び運用に従事する者は、主任技術者として選任する者がその保安のためにする指示に従うこと。

ハ 主任技術者として選任する者は、自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務を誠実に行うこと。

② 設置者から自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督に係る業務の委託を受けている者（以下「受託者」という。）又はその役員若しくは従業員であって、選任する事業場に常時勤務する者（規則第52条第4項ただし書の承認において、この内規6.に従って兼任を承認される場合は、いずれかの事業場に常時勤務する者。）。ただし、当該委託契約において、(1)①イからハまでに掲げる事項が全て約されている場合に限る。

(2) (1)②の受託者が、当該自家用電気工作物の維持や管理の主体であって、当該自家

用電気工作物について法第39条第1項の義務を果たすことが明らかな場合は、受託者を設置者とみなし、当該受託者（以下「みなし設置者」という。）が主任技術者の選任を行うことを認める。また、（1）の規定は、主任技術者を選任するみなし設置者に準用する。この場合において、（1）中「設置者」とあるのは「みなし設置者」と読み替えるものとする。

なお、この取扱いは、法第43条第2項の許可並びに規則第52条第2項及び第4項ただし書の承認についても、同様とする。

- （3） 発電事業者がその発電事業の用に供する電気工作物であつて、当該発電事業者と異なる者（以下（3）において「設備運用者等」という。）がその工事、維持及び運用を行うものについては、当該発電事業者及び設備運用者等が連名で主任技術者の選任を行うものとする。この場合において、法第42条に基づく保安規程についても、発電事業者と設備運用者等の責任分担を明確化した上で、当該発電事業者と設備運用者等の連名により定めるものとする。
- （4） 一般送配電事業を営む者が設置する一般送配電事業の用に供する発電設備については、一般送配電事業者又は発電事業者（当該設備を発電事業の用に供する場合であつて、当該発電事業者が法第38条第4項第4号の発電事業者である場合に限る。）として主任技術者を選任しなければならない。この場合において、法第42条に基づく保安規程についても同様に扱う。
- （5） 一般電気事業者が、電気事業法等の一部を改正する法律（平成26年法律72号。以下（5）において「改正法」という。）の施行後に一般送配電事業の用に供する電気工作物及び発電事業の用に供する電気工作物について、改正法の施行前に一の主任技術者を選任し、一体として工事、維持及び運用を行っている場合であつて、改正法の施行後も引き続き、一般送配電事業者及び発電事業者が一体として当該電気工作物の工事、維持及び運用を行う場合にあつては、一般送配電事業者及び発電事業者として当該一の主任技術者を選任しているものとみなす。この場合において、一般電気事業者が、それぞれ別の法人としての一般送配電事業者及び発電事業者に改組する場合にあつては、両事業者の連名による主任技術者の選任の届出を行うこととする。なお、法42条に基づく保安規程についても同様に扱うこととし、別の法人として改組する場合にあつては、両事業者の責任分担を明確化した上で、保安規程を定め、届出を行うこととする。

1の2. 法第43条第4項の職務については、次のとおり解釈する。

法第43条第4項の事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務には、その保安の監督に係る電気工作物のうち、変圧器、電力用コンデンサー、計器用変成器、リアクトル、放電コイル、電圧調整器、整流器、開閉器、遮断器、中性点抵抗器、避雷器及びOFケーブルが、「ポリ塩化ビフェニルを含有する絶縁油を使用する電気工作物等の使用及び廃止の状況の把握並びに適正な管理に関する標準実施要領（内規）（20161005商局第1号。以下「PCB管理標準実施要領」という。）」Ⅱ. 2.（1）に掲げる高濃度ポリ塩化ビフェニル含有電気工作物に該当するかどうかを主任技術者自らが確認すること、又は法第43条第5項の事業用電気工作物の工事、維持又は運用に従事する者が確認したことを主任技術者が確認することを含むものとする。

2. 法第43条第2項の許可は、次の基準により行うものとする。

(1) 電気主任技術者に係る法第43条第2項の許可は、その申請が次の①及び②の要件に適合し、かつ、自家用電気工作物の工事、維持及び運用の保安上支障がないと認められる場合に限り、行うものとする。

① 電気主任技術者を選任しようとする事業場又は設備が次のいずれかに該当すること。

イ 次に掲げる設備又は事業場のみを直接統括する事業場

(イ) 出力500キロワット未満の発電所（(ホ)に掲げるものを除く。）

(ロ) 電圧10,000ボルト未満の変電所

(ハ) 最大電力500キロワット未満の需要設備（(ホ)に掲げるものを除く。）

(ニ) 電圧10,000ボルト未満の送電線路又は配電線路を管理する事業場

(ホ) 非自航船用電気設備であって出力1,000キロワット未満の発電所又は最大電力1,000キロワット未満の需要設備

ロ 次に掲げる設備又は事業場の設置の工事のための事業場

(イ) 出力500キロワット未満の発電所（(ホ)に掲げるものを除く。）

(ロ) 電圧10,000ボルト未満の変電所

(ハ) 最大電力500キロワット未満の需要設備（(ホ)に掲げるものを除く。）

(ニ) 電圧10,000ボルト未満の送電線路

(ホ) 非自航船用電気設備（非自航船に設置される電気工作物の総合体をいう。以下同じ。）であって出力1,000キロワット未満の発電所又は最大電力1,000キロワット未満の需要設備

② 電気主任技術者として選任しようとする者が、次のいずれかに該当すること。

イ 学校教育法（昭和22年法律第26号）による高等学校又はこれと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令（昭和40年通商産業省令第52号）第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者

ロ 電気工事士法（昭和35年法律第139号）第3条第1項に規定する第1種電気工事士（ハに掲げる者であって、同法第4条第3項第1号に該当する者として免状の交付を受けた者を除く。）

ハ 電気工事士法第6条に規定する第1種電気工事士試験に合格した者

ニ 旧電気工事技術者検定規則（昭和34年通商産業省告示第329号）による高压電気工事技術者の検定に合格した者

ホ 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高压試験に合格した者

へ 最大電力100キロワット未満（非自航船用電気設備にあつては最大電力300キロワット未満）の需要設備又は電圧600ボルト以下の配電線路を管理する事業場のみを直接統括する事業場に係る場合は、イからホまでに掲げる者のほか、次のいずれかに該当する者

(イ) 電気工事士法第3条第2項に規定する第2種電気工事士

(ロ) 学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学科以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む。）に関する科目を修めて卒業した者

ト イからホまでに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者、又はへに規定する場合にあつては、へ（イ）若しくは（ロ）に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者

(2) ダム水路主任技術者に係る法第43条第2項の許可は、その申請が次の①及び②の要

件に適合し、かつ、自家用電気工作物の工事、維持及び運用の保安上支障がないと認められる場合に限り、行うものとする。

- ① ダム水路主任技術者を選任しようとする事業場が次のいずれかに該当すること。
 - イ 出力500キロワット未満の水力発電所の設置の工事のための事業場又は直接統括する水力発電所が出力500キロワット未満のものである事業場
 - ロ 出力500キロワット以上2,000キロワット以下の水力発電所（ダムの基礎地盤から堤頂までの高さが15メートル未満の水路式発電所（工業標準化法（昭和24年法律第185号）に基づく日本工業規格B 0119（2009）において定められた水路式発電所をいう。）（以下単に「水路式発電所」という。）に限る。）の設置の工事のための事業場又は直接統括する水力発電所（水路式発電所に限る。）が出力500キロワット以上2,000キロワット以下のものである事業場
- ② ダム水路主任技術者として選任しようとする者が、次のいずれかに該当すること。
 - イ 出力100キロワット未満の水力発電所の設置の工事のための事業場又は直接統括する水力発電所が出力100キロワット未満のものである事業場に係る場合は、次のいずれかに該当する者
 - (イ) 学校教育法による高等学校又はこれと同等以上の教育施設において土木工学の課程を修めて卒業した者
 - (ロ) 技術士法（昭和58年法律第25号）第4条第1項の規定に基づき行われる技術士試験の第一次試験であってその技術部門が建設部門であるものに合格した者
 - (ハ) 技術士法第4条第1項の規定に基づき行われる技術士試験の第二次試験であってその技術部門が建設部門、農業部門（選択科目が「農業土木」であるものに限る。）又は総合技術監理部門（選択科目が建設部門に係るもの又は「農業土木」であるものに限る。）であるものに合格した者
 - (ニ) 建設業法（昭和24年法律第100号）第27条第1項の規定に基づき行われる技術検定であってその種目が土木施工管理であるものに合格した者
 - (ホ) (ロ) から (ニ) までに掲げる者のほか、(イ) に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認められる者
 - (ヘ) (イ) から (ホ) までに掲げる者のほか、土木技術に関し相当の知識及び技能を有すると認められる者
 - ロ 出力100キロワット以上500キロワット未満の水力発電所の設置の工事のための事業場又は直接統括する水力発電所が出力100キロワット以上500キロワット未満のものである事業場に係る場合は、イ(イ) から(ホ) までに掲げる要件のいずれかに該当する者
 - ハ 出力500キロワット以上2,000キロワット以下の水力発電所（水路式発電所に限る。）の設置の工事のための事業場又は直接統括する水力発電所（水路式発電所に限る。）が出力500キロワット以上2,000キロワット以下のものである事業場に係る場合は、イ(イ) から(ホ) までに掲げる要件のいずれかに該当する者であって、次に掲げるいずれの要件にも適合する講習（以下「ダム水路主任技術者講習」という。）の課程を修了した者
 - (イ) 講習を実施する者は、以下の要件を全て満たしていること。
 - (a) 電力・土木技術等に関する講演又は講習を適切に開催した実績がある法人

(b) 法又は法に基づく処分に違反し、罰金以上の刑に処され、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者が、役員にいない法人

(ロ) 講習を実施する者は、講習を行う前に、講習の日程、実施場所並びに（ハ）及び（二）に掲げる要件を満たす講習である旨を公示すること。

（ハ）次の表の左欄に掲げる科目に応じ、それぞれ同表の中欄に掲げる範囲について、それぞれ同表右欄に掲げる講習時間以上行うこと。

科目	範囲	講習時間
水力発電設備の保安に関する法令	一 水力発電設備の安全規制の概要 二 ダム水路主任技術者制度の概要 三 電気関係報告規則について	30分
水力発電の仕組み、技術基準	一 水力発電の仕組み 二 発電用水力設備に関する技術基準を定める省令、発電用水力設備の技術基準の解釈について	1時間30分
水文・気象	一 水文・気象と防災 二 水理学基礎	4時間
コンクリート構造物（ダム、導水路等）	一 設計、解析（耐震設計を含む。） 二 ダム挙動の把握と漏水管理 三 点検、計測、診断	2時間
鋼構造物（水門、ゲート、水圧鉄管等）	一 設計、解析（振動解析を含む。） 二 ゲート操作、バルブ操作 三 点検、計測、診断	2時間
水力発電所の設計、演習	一 水力設備の設計 二 設計演習	3時間
ダム水路主任技術者の保安監督業務	一 巡視・点検及び検査の方法 二 不良箇所の発見と処置 三 記録と経年監視 四 災害・事故の対応	1時間
現地実習	一 巡視・点検及び検査の方法 二 不良箇所の発見と処置 三 水力設備の計測、診断	3時間

(二) 第1種ダム水路主任技術者若しくは第2種ダム水路主任技術者の免状の交付を受けている者又は電気工作物検査官の職にあり若しくはあった者が講師であること。

(ホ) 講習を修了した者に対して、講習実施機関名、受講者氏名、生年月日、講師名、受講期日及びダム水路主任技術者講習を修了した旨が記載された修了証（例えば、様式例によるものとする。）を発行すること。

(3) ボイラー・タービン主任技術者に係る法第43条第2項の許可は、その申請が次の①及び②の要件に適合し、かつ、自家用電気工作物の工事、維持及び運用の保安上支障がないと認められる場合に限り、行うものとする。

- ① ボイラー・タービン主任技術者を選任しようとする事業場又は設備が、火力発電所（内燃力を原動力とするものを除く。以下本項において同じ。）、火力発電所の設置の工事のための事業場若しくは火力発電所を直接統括する事業場又は燃料電池発電所若しくは燃料電池発電所の設置の工事のための事業場であること。

- ② ボイラー・タービン主任技術者として選任しようとする者が、次のいずれかに該当すること。

イ 小型の汽力（温泉法（昭和23年法律第125号）の規定の適用を受ける温泉を利用するものに限る。）を原動力とする出力100キロワット以下の火力発電所、当該発電所の設置のための事業場又は当該発電所を直接統括する事業場であってその直接統括する発電所の出力の合計が100キロワット以下のものに係る場合は、次のいずれかに該当する者

（イ）学校教育法による高等学校又はこれと同等以上の教育施設において機械工学の課程を修めて卒業した者

（ロ）学校教育法による高等学校若しくはこれと同等以上の教育施設を卒業した者又は高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）第8条に規定する認定試験合格者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）第8条第1項の資格検定合格者を含む。）で、かつ、次のいずれかに該当する者

（a）労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）別表第18第37号のボイラー取扱技能講習を修了した者であって、経済産業省が実施する講習を修了した者又は経済産業省が実施する試験に合格した者

（b）火力発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して1年以上従事した者

（ハ）船舶職員及び小型船舶操縦者法（昭和26年法律第149号）第5条第1項第2号イの1級海技士（機関）、同号ロの2級海技士（機関）又は同号ハの3級海技士（機関）としての海技士の免許を受けている者

（ニ）労働安全衛生法別表第18第37号のボイラー取扱技能講習を修了した者であって、労働安全衛生法施行令（昭和47年政令第318号）第20条第5号イからニまでに掲げるボイラーを4月以上取り扱った経験がある者

（ホ）ボイラー及び圧力容器安全規則（昭和47年労働省令第33号）第97条第1号の特級ボイラー技士免許、同条第2号の1級ボイラー技士免許又は同条第3号の2級ボイラー技士免許を受けている者

（ヘ）エネルギーの使用の合理化等に関する法律（昭和54年法律第49号）第9条第1項のエネルギー管理士免状の交付を受けている者（エネルギー管理士の試験及び免状の交付に関する規則（昭和59年通商産業省令第15号）第29条の表の上欄に掲げる熱分野専門区分に応じた同表の下欄に掲げる試験課目又は同規則別表第1の第1欄に掲げる熱分野専門区分に応じた同表の第2欄に掲げる修了試験課目に合格したことによりエネルギー管理士免状の交付を受けた者に限る。）

（ト）技術士法第4条第1項の規定に基づき行われる技術士試験の第二次試験であってその技術部門が機械部門であるものに合格した者

ロ 出力200キロワット未満、圧力1,000キロパスカル未満、かつ、当該ボイラーの最大蒸発量（ボイラーを2個以上設置する場合はその蒸発量の和）が4トン毎時

未満（発電用の蒸気タービンに蒸気を供給するボイラーに限る。）の火力発電所、当該発電所の設置のための事業場又は火力発電所を直接統括する事業場であってその直接統括する発電所の出力の合計が200キロワット未満のものに係る場合は、次のいずれかに該当する者。

- (イ) 学校教育法による高等学校又はこれと同等以上の教育施設において機械工学の課程を修めて卒業した者
 - (ロ) 学校教育法による高等学校若しくはこれと同等以上の教育施設を卒業した者又は高等学校卒業程度認定試験規則第8条に規定する認定試験合格者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程第8条第1項の資格検定合格者を含む。）であって、火力発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して1年以上従事した者
 - (ハ) 船舶職員及び小型船舶操縦者法第5条第1項第2号イの1級海技士（機関）、同号ロの2級海技士（機関）又は同号ハの3級海技士（機関）としての海技士の免許を受けている者
 - (ニ) 労働安全衛生法別表第18第37号のボイラー取扱技能講習を修了した者であって、労働安全衛生法施行令第20条第5号イからニまでに掲げるボイラーを4月以上取り扱った経験がある者
 - (ホ) ボイラー及び圧力容器安全規則第97条第1号の特級ボイラー技士免許、同条第2号の1級ボイラー技士免許又は同条第3号の2級ボイラー技士免許を受けている者
 - (ヘ) エネルギーの使用の合理化等に関する法律第9条第1項のエネルギー管理士免状の交付を受けている者（エネルギー管理士の試験及び免状の交付に関する規則第29条の表の上欄に掲げる熱分野専門区分に応じた同表の下欄に掲げる試験課目又は同規則別表第1の第1欄に掲げる熱分野専門区分に応じた同表の第2欄に掲げる修了試験課目に合格したことによりエネルギー管理士免状の交付を受けた者に限る。）
 - (ト) 技術士法第4条第1項の規定に基づき行われる技術士試験の第二次試験であってその技術部門が機械部門であるものに合格した者
- ハ 出力5,000キロワット未満かつ圧力1,470キロパスカル未満の火力発電所若しくは燃料電池発電所、当該発電所の設置の工事のための事業場又は火力発電所を直接統括する事業場であってその直接統括する発電所の出力の合計が5,000キロワット未満のものに係る場合は、次のいずれかに該当する者。
- (イ) 学校教育法による高等学校又はこれと同等以上の教育施設において機械工学の課程を修めて卒業した者
 - (ロ) 船舶職員及び小型船舶操縦者法第5条第1項第2号イの1級海技士（機関）としての海技士の免許を受けている者
 - (ハ) ボイラー及び圧力容器安全規則第97条第1号の特級ボイラー技士免許又は同条第2号の1級ボイラー技士免許を受けている者
 - (ニ) エネルギーの使用の合理化等に関する法律第9条第1項のエネルギー管理士免状の交付を受けている者（エネルギー管理士の試験及び免状の交付に関する規則第29条の表の上欄に掲げる熱分野専門区分に応じた同表の下欄に掲げる試験課目又は同規則別表第1の第1欄に掲げる熱分野専門区分に応じた同表の第2欄に

掲げる修了試験課目に合格したことによりエネルギー管理士免状の交付を受けた者に限る。)

(ホ) 技術士法第4条第1項の規定に基づき行われる技術士試験の第二次試験であつてその技術部門が機械部門であるものに合格した者

(ヘ) イ(ロ)(b)に掲げる者であつて、出力200キロワット以上かつ圧力1,000キロパスカル以上の火力発電所又は燃料電池発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して2年以上従事した者

(ト) 船舶職員及び小型船舶操縦者法第5条第1項第2号ロの2級海技士(機関)若しくは同号ハの3級海技士(機関)としての海技士の免許を受けている者又はボイラー及び圧力容器安全規則第97条第3号の2級ボイラー技士免許を受けている者であつて、出力200キロワット以上かつ圧力1,000キロパスカル以上の火力発電所又は燃料電池発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して2年以上従事した者

(チ) (イ)から(ト)までに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認められる者

ニ 圧力2,940キロパスカル未満の火力発電所若しくは燃料電池発電所、当該発電所の設置の工事のための事業場又は火力発電所を直接統括する事業場に係る場合は、次のいずれかに該当する者

(イ) 学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設において機械工学の課程を修めて卒業した者

(ロ) ハに掲げる者(ト)及び(チ)に掲げる者を除く。)であつて、圧力1,470キロパスカル以上の火力発電所又は燃料電池発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して3年以上従事した者

ホ 圧力5,880キロパスカル未満の火力発電所若しくは燃料電池発電所又は当該発電所の設置の工事のための事業場に係る場合は、次のいずれかに該当する者

(イ) 学校教育法による大学(短期大学を除く。)又はこれと同等以上の教育施設において機械工学の課程を修めて卒業した者

(ロ) ニに掲げる者であつて圧力2,450キロパスカル以上の火力発電所又は燃料電池発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して2年以上従事した者

ヘ 圧力5,880キロパスカル以上の火力発電所若しくは燃料電池発電所又は当該発電所の設置の工事のための事業場に係る場合は、ホに掲げる者であつて、圧力2,450キロパスカル以上の火力発電所又は燃料電池発電所の工事、維持又は運用に関する実務に通算して3年以上従事した者

3. 規則第52条第1項の表第6号に掲げる事業場又は設備(以下「事業場等」という。)に行う主任技術者の選任は、次のとおり解釈する。

(1) 発電所、変電所、需要設備又は送電線路若しくは配電線路を管理する事業場(以下3.において「被統括事業場」という。)を直接統括する事業場(以下3.において「統括事業場」という。)のうち、自家用電気工作物であつて電圧170,000ボルト未満で連系等する風力発電所、太陽電池発電所、水力発電所又はこれらを系統に連系するための設備への電気主任技術者の選任は、次に掲げる要件の全てに適合する場合に行うものとする。

なお、被統括事業場のうち、発電所の数が7以上（風力発電所であって、複数の発電機を一体として運用する事業場等は1とみなす。）となる場合は、保安管理業務の遂行上支障となる場合が多いと考えられるので、特に慎重を期することとする。

① 統括事業場において、被統括事業場の保安を一体的に確保するための組織（以下3.において「保安組織」という。）が次に掲げる要件の全てに適合すること。

イ 設置者又はその役員若しくは従業員（以下3.において「設置者等」という。）の中から、被統括事業場の規模に応じた知識及び保安経験を有する者を、統括事業場に確保していること。

ロ 被統括事業場の保安管理業務の実実施計画に基づいた人員数を、統括事業場に確保していること。ただし、設置者等以外の者から確保するときは、保安管理業務の遂行上支障が生じないようにその業務内容を契約において明確にしなければならない。

ハ 統括事業場は、被統括事業場を遠隔監視装置等により常時監視を行い、異常が生じた場合に保安組織に通報する体制を確保していること。なお、常時監視するにあたっては、電気設備の技術基準の解釈（20130215商局第4号）第47条及び第48条に定める各項目に準じたものであること。

ニ 保安組織が通報を受けた場合において、事態の緊急性により必要と認めるときは、速やかに統括事業場において保安管理業務を指揮する電気主任技術者（以下3.において「統括電気主任技術者」という。）に通報できる体制を確保していること。

ホ 異常が生じた場合において、緊急の対応が必要なときは、夜間、休日等であっても常に、統括電気主任技術者の指示の下に適切な措置を行う体制を確保していること。

ヘ 設置者は、保安管理業務の遂行体制を構築し、また、統括電気主任技術者による保安管理業務の内容の適切性及び実効性を確認するために、あらかじめ定められた間隔で、保安管理業務のレビューを行い、必要な場合には適切な改善を図ること。

② 統括電気主任技術者として選任しようとする者が次に掲げる要件の全てに該当すること。

イ 被統括事業場の種類に応じて、第1種電気主任技術者免状、第2種電気主任技術者免状又は第3種電気主任技術者免状の交付を受けていること。

ロ 保安組織において実効性のある監督及び管理ができること。

ハ 異常が生じた場合において通報を受けた場合には、現場の状況に応じた確認や保安組織へ指示を行うなど適切な措置をとることができること。

③ 統括電気主任技術者の執務の状況が次に掲げる要件の全てに適合すること。

イ 原則として、統括事業場に常駐すること。

ロ 被統括事業場は、統括事業場から2時間以内に到達できるところにあること。

ハ 統括電気主任技術者がやむを得ず勤務できない場合に備え、あらかじめ統括電気主任技術者と同等の知識及び経験を有する代務者を指名しておくこと。

④ ①～③に係る事項が保安規程に適切に反映されていること。

(2) 自家用電気工作物である水力発電所の統括事業場へのダム水路主任技術者の選任は、次に掲げる要件の全てに適合する場合に行うものとする。

なお、被統括事業場のうち、発電所の数が7以上となる場合は、保安管理業務の遂行上支障となる場合が多いと考えられるので、特に慎重を期することとする。

① 統括事業場において、保安組織が次に掲げる要件の全てに適合すること。

イ 設置者等の中から、被統括事業場の規模に応じた知識及び保安経験を有する者を、

統括事業場に確保していること。

ロ 被統括事業場の保安管理業務の実施計画に基づいた人員数を、統括事業場に確保していること。ただし、設置者等以外の者から確保するときは、保安管理業務の遂行上支障が生じないようその業務内容を契約において明確にしなければならない。

ハ 統括事業場は、被統括事業場を遠隔監視装置等により監視を行い、異常が生じた場合に保安組織に通報する体制を確保していること。

ニ 保安組織が通報を受けた場合において、事態の緊急性により必要と認めるときは、速やかに統括事業場において保安管理業務を指揮するダム水路主任技術者（以下3.において「統括ダム水路主任技術者」という。）に通報できる体制を確保していること。

ホ 異常が生じた場合において、緊急の対応が必要なときは、夜間、休日等であっても常に、統括ダム水路主任技術者の指示の下に適切な措置を行う体制を確保していること。

ヘ 設置者は、保安管理業務の遂行体制を構築し、また、統括ダム水路主任技術者による保安管理業務の内容の適切性及び実効性を確認するために、あらかじめ定められた間隔で、保安管理業務のレビューを行い、必要な場合には適切な改善を図ること。

② 統括ダム水路主任技術者として選任しようとする者が次に掲げる要件の全てに該当すること。

イ 第1種ダム水路主任技術者免状又は第2種ダム水路主任技術者免状の交付を受けていること。

ロ 保安組織において実効性のある監督及び管理ができること。

ハ 異常が生じた場合において通報を受けた場合には、現場の状況に応じた確認や保安組織へ指示を行うなど適切な措置をとることができること。

③ 統括ダム水路主任技術者の執務の状況が次に掲げる要件の全てに適合すること。

イ 原則として、統括事業場に常駐すること。

ロ 被統括事業場は、同一水系又は近傍水系であって、かつ、統括事業場から2時間以内に到達できる場所にあること。

ハ 統括ダム水路主任技術者がやむを得ず勤務できない場合に備え、あらかじめ統括ダム水路主任技術者と同等の知識及び経験を有する代務者を指名しておくこと。

④ ①～③に係る事項が保安規程に適切に反映されていること。

4. 規則第52条第2項の承認は、次の基準により行うものとする。

(個人事業者の兼業等)

(1) 規則第52条の2第1号ホについては、保安管理業務の計画的かつ確実な遂行に支障が生じないことを担保するため、保安管理業務の内容の適切性及び実効性について厳格に審査するとともに、個人事業者が他に職業を有している場合には審査にあたり特に慎重を期することとする。

(法人のマネジメントシステム)

(2) 規則第52条の2第2号ニについては、保安管理業務の計画的かつ確実な遂行に支障が生じないことを担保するため、保安管理業務の内容の適切性及び実効性について厳格に審査することとする。承認にあたっては、次の項目の全てが満たされていることを要することとし、これらの項目については、法人の社内規程等に明確かつ具体的に規定されており、点検を含む保安管理業務の適切な実施に確実に反映されることが担保されていることを要することとする。

- ① 保安業務従事者は規則第52条第2項の承認の申請に係る委託契約の相手方の法人（以下本項において「法人」という。）の役員又は従業員であること。
- ② 法人は、保安管理業務の遂行体制を構築し、保安業務担当者が明確な責任の下に保安管理業務を実施すること。また、あらかじめ定められた間隔で保安管理業務のレビューを行い適切な改善を図ること。
- ③ 保安業務担当者は、保安管理業務以外の職務（電気工作物の保安に関するものを除く。）を兼務しないこと。
- ④ 保安業務担当者は事業場の点検を自ら行うこと。ただし、保安業務担当者が保安業務従事者に事業場の点検を行わせる場合は、次に掲げる要件の全てに該当すること。
 - イ 保安業務担当者が自らの職務上の指揮命令関係にある保安業務従事者に適切に指示して点検を行わせるとともに、点検の結果に関する報告が当該保安業務従事者からの的確に行われる体制となっていること。
 - ロ 保安業務担当者が点検を指示した保安業務従事者との業務の分担内容が明確になっていること。その際、保安業務担当者が自らは保安業務従事者の監督を行うこととして、事業場の点検の大部分を保安業務従事者に行わせるなど、自ら実施する保安管理業務の内容が形式的なものとなっていないこと。このため、保安業務担当者に係る勤務体制等について厳格に審査を行う。
 - ハ 特定の保安業務従事者に著しく偏って点検を行わせることとなっていないこと。このため、保安業務従事者が保安業務担当者から指示を受けて点検する事業場については、平成15年経済産業省告示第249号第3条第3項の値（以下「告示の値」という。）を当該保安業務担当者から職務上の指揮命令関係にある保安業務従事者の総数で除した値又は告示の値に0.2を乗じた値のいずれか小さい方の値を超えないこと。
 - ニ 保安業務従事者は、複数の保安業務担当者から点検の指示を受けないこと。

（法人の保安業務担当者等の明確化）

- （3）規則第53条第2項第2号については、委託契約書に保安業務担当者を明確にする旨が記載されており、かつ、保安業務担当者及び当該保安業務担当者が指示して点検を行わせる保安業務従事者（以下「保安業務担当者等」という。）の氏名及び生年月日並びに主任技術者免状の種類及び番号が委託契約書の別紙等で定められていることを要することとする。

（太陽電池発電所専用の受変電設備の点検）

- （4）規則第53条第2項第5号で定める点検について、平成15年経済産業省告示第249号第4条第4号の3の「太陽電池発電所に異常が生じた場合に安全かつ確実に停止させるための十分な監視体制が確保されていると認められるとき」とは、次の①及び②に掲げる要件に適合する場合とする。
 - ① 太陽電池発電所が、電気設備に関する技術基準を定める省令（平成9年通商産業省令第52号）第46条第1項に掲げる発電所に該当しないものであって、電気設備の技術基準の解釈第47条第5項第2号又は第3号に該当するものであること。
 - ② 太陽電池発電所の設置者が、電気設備の技術基準の解釈第47条第1項第3号ロ（イ）から（ニ）までに掲げる場合であって、警報が発せられたときは、当該警報の内容を電気管理技術者又は保安業務担当者等（以下「電気管理技術者等」という。）に迅速に伝達し、かつ、当該警報の内容の伝達を受けた電気管理技術者等が当該警報に係る異常

に対応することができるようにする体制を有すること。

(委託契約書に明記された者による保安管理業務の実施等)

(5) 規則第53条第2項第5号の「電気工作物の工事、維持及び運用の保安に関し、設置者及び委託契約の相手方の相互の義務及び責任その他必要事項が委託契約に定められていること」は、次に掲げる全ての事項を委託契約書等から確認できることとする。

① 外部委託に係る自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の確保を、次に掲げる基本原則の全てに従って行うこと。

イ 電気管理技術者等が、保安規程に基づき、保安管理業務を自ら実施する。ただし、次に掲げる自家用電気工作物であって、電気管理技術者等の監督の下で点検が行われ、かつ、その記録が電気管理技術者等により確認されているものに係る保安管理業務については、この限りでない。

(イ) 設備が特殊であるため、専門の知識及び技術を有する者でなければ点検を行うことが困難な自家用電気工作物（例えば、次のいずれかに該当する自家用電気工作物）

(a) 建築基準法（昭和25年法律第201号）第12条第3項の規定に基づき、一級建築士等の検査を要する建築設備

(b) 消防法（昭和23年法律第186号）第17条の3の3の規定に基づき、消防設備士免状の交付を受けている者等の点検を要する消防用設備等又は特殊消防用設備等

(c) 労働安全衛生法第45条第2項の規定に基づき、検査業者等の検査を要する機械

(d) 機器の精度等の観点から専門の知識及び技術を有する者による調整を要する機器（医療用機器、オートメーション化された工作機械群等）

(e) 内部点検のための分解、組立に特殊な技術を要する機器（密閉型防爆構造機器等）

(ロ) 設置場所が特殊であるため、電気管理技術者等が点検を行うことが困難な自家用電気工作物（例えば、次のいずれかの場所に設置される自家用電気工作物）

(a) 立入に危険を伴う場所（酸素欠乏危険場所、有毒ガス発生場所、高所での危険作業を伴う場所、放射線管理区域等）

(b) 情報管理のため立入が制限される場所（機密文書保管室、研究室、金庫室、電算室等）

(c) 衛生管理のため立入が制限される場所（手術室、無菌室、新生児室、クリーンルーム等）

(d) 機密管理のため立入が制限される場所（独居房等）

(e) 立入に専門家による特殊な作業を要する場所（密閉場所等）

(ハ) 事業場外で使用されている可搬型機器である自家用電気工作物

(ニ) 発電設備のうち電気設備以外である自家用電気工作物

ロ 設置者が、事業場において保安管理業務を行う者と面接等を行い、その者が委託契約書に明記された電気管理技術者等であることを確認する。このため、電気管理技術者等が、事業場における保安管理業務を行う際に、その身分を示す証明書により、自らが委託契約書に記された電気管理技術者等であることを設置者に対して明らかにする。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

- ハ 設置者が、保安管理業務の結果について電気管理技術者等から報告を受け、その記録（当該業務を実施した電気管理技術者等の氏名を含む。）を確認及び保存する。
 - ニ 電気管理技術者等が、自家用電気工作物の技術基準への適合状況を確認するため、設置、改造等の工事期間中（以下単に「工事期間中」という。）の点検、月次点検（規則第53条第2項第5号に基づき委託契約書に頻度を定める点検であって、設備が運転中の状態において行うものをいう。以下同じ。）及び年次点検（主として停電により設備を停止状態にして行う点検をいう。以下本項において同じ。）を行う。
 - ホ 電気管理技術者等が、工事期間中の点検、月次点検又は年次点検の結果から、技術基準への不適合又は不適合のおそれがあると判断した場合は、修理、改造等を設置者に指示又は助言する。
- ② 月次点検を、次に掲げる要件の全てに従って行うこと。
- イ 外観点検を、（イ）に掲げる項目について、（ロ）に掲げる設備等を対象として行う。
 - （イ）点検項目
 - （a）電気工作物の異音、異臭、損傷、汚損等の有無
 - （b）電線とそれ以外の物との離隔距離の適否
 - （c）機械器具、配線の取付け状態及び過熱の有無
 - （d）接地線等の保安装置の取付け状態
 - （ロ）対象設備等
 - （a）引込設備（区分開閉器、引込線、支持物、ケーブル等）
 - （b）受電設備（断路器、電力用ヒューズ、遮断器、高圧負荷開閉器、変圧器、コンデンサ及びリアクトル、避雷器、計器用変成器、母線等）
 - （c）受電盤・配電盤
 - （d）接地工事の施設状況（接地線、保護管等）
 - （e）構造物（受電室建物、キュービクル式受電設備・変電設備の金属製外箱等）
・配電設備
 - （f）発電設備（原動機、発電機、始動装置等）
 - （g）蓄電池設備
 - （h）負荷設備（配線、配線器具、低圧機器等）
 - ロ （イ）及び（ロ）までに掲げる項目の確認のため、当該（イ）及び（ロ）に定める測定を行う。
 - （イ）電圧値の適否及び過負荷等
電圧、負荷電流測定
 - （ロ）低圧回路の絶縁状態
B種接地工事の接地線に流れる漏えい電流測定
- ハ イ及びロの点検のほか、設置者及びその従事者に、日常巡視等において異常等がなかったか否かの問診を行い、異常があった場合には、電気管理技術者等としての観点から点検を行う。
- ③ 年次点検を、月次点検に係る②の要件に加え、次のイ及びロに掲げる要件に従って行うこと。
- イ 1年に1回以上行う。（ただし、信頼性が高く、かつ、ロと同等と認められる点検が1年に1回以上行われている機器については、停電により設備を停止状態にして行

う点検を3年に1回以上とすることができる。)

- ロ 次に掲げる全ての項目の確認その他必要に応じた測定又は試験を行う。
 - (イ) 低圧電路の絶縁抵抗が電気設備に関する技術基準を定める省令第58条に規定された値以上であること並びに高圧電路が大地及び他の電路と絶縁されていること。
 - (ロ) 接地抵抗値が電気設備の技術基準の解釈第17条に規定された値以下であること。
 - (ハ) 保護継電器の動作特性試験及び保護継電器と遮断器の連動動作試験の結果が正常であること。
 - (ニ) 非常用予備発電装置が常用電源停電時に自動的に起動し、停電復旧後停止すること並びに非常用予備発電装置の発電電圧及び発電電圧周波数(回転数)が正常であること。
 - (ホ) 蓄電池設備のセルの電圧、電解液の比重、温度等が正常であること。
 - (ヘ) 変圧器、電力用コンデンサー、計器用変成器、リアクトル、放電コイル、電圧調整器、整流器、開閉器、遮断器、中性点抵抗器、避雷器及びOFケーブルが、PCB管理標準実施要領Ⅱ. 2. (1)に掲げる高濃度ポリ塩化ビフェニル含有電気工作物に該当するかどうかを確認すること。
- ④ 工事期間中は、②イに定める外観点検を行い、自家用電気工作物の施工状況及び技術基準への適合状況の確認を行うこと。
- ⑤ 低圧電路の絶縁状況の適確な監視が可能な装置を有する需要設備については、警報発生時(警報動作電流(設定の上限値は50ミリアンペアとする。))以上の漏えい電流が発生している旨の警報(以下「漏えい警報」という。)を連続して5分以上受信した場合又は5分未満の漏えい警報を繰り返し受信した場合をいう。以下同じ。)に、次のイ及びロに掲げる処置を行うこと。
 - イ 電気管理技術者等が、警報発生の原因を調査し、適切な措置を行う。
 - ロ 電気管理技術者等が、警報発生時の受信の記録を3年間保存する。
- ⑥ 事故又は故障発生時に、次のイからニまでに掲げる処置を行うこと。
 - イ 事故又は故障の発生や発生するおそれがある旨の連絡を設置者又はその従業者から受けた場合は、電気管理技術者等が、現状の確認、送電停止、電気工作物の切り離し等に関する指示を行う。
 - ロ 電気管理技術者等が、事故又は故障の状況に応じて、臨時点検を行う。
 - ハ 事故又は故障の原因が判明した場合は、電気管理技術者等が、同様の事故又は故障を再発させないための対策について、設置者に指示又は助言を行う。
 - ニ 電気関係報告規則(昭和40年通商産業省令第54号)(以下「報告規則」という。)に基づく事故報告を行う必要がある場合は、電気管理技術者等が、設置者に対し、事故報告するよう指示を行う。

(連絡責任者の選任)

- (6) 規則第53条第2項第5号の「その他必要事項」は、規則第52条第2項の承認を受けようとする者が当該事業場について、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安のため必要な事項を委託契約の相手方に連絡する責任者(設備容量が6,000キロボルトアンペア以上の需要設備にあつては2.(1)②イからホまでに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者)が選任されていることとする。

(事業場への到達時間)

(7) 規則第53条第2項第6号の「遅滞なく到達」とは、2時間以内に到達することを要することとする。

(過疎地域等の自家用電気工作物に対する措置)

(8) 申請に係る自家用電気工作物が過疎地域自立促進特別措置法(平成12年法律第15号)第2条第1項に規定する過疎地域(以下「過疎地域」という。)、離島振興法(昭和28年法律第72号)第2条第1項の規定により指定された離島振興対策実施地域(以下「離島振興対策実施地域」という。)又は沖縄振興特別措置法(平成14年法律第14号)第3条第3号に規定する離島(以下「離島」という。)に設置される場合には、当該申請の審査に当たっては保安管理業務の円滑かつ適切な実施に支障が生じないよう配慮することとする。

(高圧一括受電するマンションにおける住居部分及び家庭用燃料電池設備の点検)

(9) 高圧一括受電するマンションの保安管理を外部委託により行う場合にあっては、住居部分(その住居部分で使用する電気を電気供給事業者から直接受電するとした場合に、その電気工作物が法第57条に規定する調査の対象となるものに限る。)の点検は、(5)②及び③にかかわらず、4年に1回(住居部分が「一般用電気工作物の定期調査の方法に関する基本的な要件及び標準的な調査項目について」3.に該当する場合には1年に1回)以上の頻度で行うことをもって足りるものとする。

また、各住居部分と直接に電氣的に接続されている家庭用燃料電池発電設備(以下「当該燃料電池発電設備」という。)の点検は、次の①から⑥に掲げる要件に適合する場合に限り、(5)②及び③にかかわらず、4年に1回(住居部分が「一般用電気工作物の定期調査の方法に関する基本的な要件及び標準的な調査項目について」3.に該当する場合には1年に1回)以上の頻度で行うことをもって足りるものとする。この場合の点検においては、外観点検、漏電遮断器の動作確認並びに当該燃料電池発電設備を製造、販売した者その他の当該燃料電池発電設備の構造及び性能に精通する者(以下「機器販売事業者等」という。)による整備記録の確認も併せて行うこと。

- ① 当該燃料電池発電設備及び当該燃料電池発電設備と直接に電氣的に接続されている住居部分の分電盤に、漏電遮断器が設置されていること。
- ② 当該燃料電池発電設備と直接に電氣的に接続されている住居部分から、高圧一括受電するマンション構内への電気の潮流が発生しないこと。
- ③ 設置者と機器販売事業者等との契約により、当該燃料電池発電設備の保守が実施され、その点検結果等が整備記録に記録されていること。
- ④ 各住居部分の当該燃料電池発電設備が、出力十キロワット未満であること。
- ⑤ 設置者又は設置者から委託を受けた機器販売事業者等によって、③の整備記録が適切に保管されていること。
- ⑥ 当該燃料電池発電設備が、保安に影響する設備の異常を検知した場合及び機器販売事業者等による設備の整備周期を超えた場合には自動停止するものであり、かつ、機器販売事業者等の確認の後に運転が再開されること。ただし、停電や電力の過剰使用等によって遮断器が動作した場合等においては、当該燃料電池発電設備の運転の再開を居住者自らが行うことを妨げるものではない。

5. 規則第52条第3項の承認は、次の基準により行うものとする。

(承認の対象となる水力発電所)

- (1) 水力発電所に係る規則第52条第3項の承認は、水路式発電所（工業標準化法（昭和24年法律第185号）に基づく日本工業規格B0119（2009）において定められた水路式発電所をいう。）であって、かつ、ダムの基礎地盤から堤頂までの高さが十五メートル未満のものについて行うものとする。

(個人事業者の兼業等)

- (2) 規則第52条の2第1号ホについては、保安管理業務の計画的かつ確実な遂行に支障が生じないことを担保するため、保安管理業務の内容の適切性及び実効性について厳格に審査するとともに、個人事業者が他に職業を有している場合には審査にあたり特に慎重を期することとする。

(法人のマネジメントシステム)

- (3) 規則第52条の2第2号ニについては、保安管理業務の計画的かつ確実な遂行に支障が生じないことを担保するため、保安管理業務の内容の適切性及び実効性について厳格に審査することとする。承認にあたっては、次の項目の全てが満たされていることを要することとし、これらの項目については、法人の社内規程等に明確かつ具体的に規定されており、点検を含む保安管理業務の適切な実施に確実に反映されることが担保されていることを要することとする。

- ① 保安業務従事者は規則第52条第3項の承認の申請に係る委託契約の相手方の法人（以下本項において「法人」という。）の役員又は従業員であること。
 - ② 法人は、保安管理業務の遂行体制を構築し、保安業務担当者が明確な責任の下に保安管理業務を実施すること。また、あらかじめ定められた間隔で保安管理業務のレビューを行い適切な改善を図ること。
 - ③ 保安業務担当者は、保安管理業務以外の職務（電気工作物の保安に関するものを除く。）を兼務しないこと。
 - ④ 保安業務担当者は事業場の点検を自ら行うこと。ただし、保安業務担当者が保安業務従事者に事業場の点検を行わせる場合は、次に掲げる全ての要件に該当すること。
 - イ 保安業務担当者が自らの職務上の指揮命令関係にある保安業務従事者に適切に指示して点検を行わせるとともに、点検の結果に関する報告が当該保安業務従事者からの的確に行われる体制となっていること。
 - ロ 保安業務担当者が点検を指示した保安業務従事者との業務の分担内容が明確になっていること。その際、保安業務担当者が自らは保安業務従事者の監督を行うこととして、事業場の点検の大部分を保安業務従事者に行わせるなど、自ら実施する保安管理業務の内容が形式的なものとなっていないこと。このため、保安業務担当者に係る勤務体制等について厳格に審査を行う。
 - ハ 特定の保安業務従事者に著しく偏って点検を行わせることとなっていないこと。このため、保安業務従事者が保安業務担当者から指示を受けて点検する事業場については、告示の値を当該保安業務担当者から職務上の指揮命令関係にある保安業務従事者の総数で除した値又は告示の値に0.2を乗じた値のいずれか小さい方の値を超えないこと。
- 二 保安業務従事者は、複数の保安業務担当者から点検の指示を受けないこと。

(法人の保安業務担当者等の明確化)

- (4) 規則第53条第2項第2号については、委託契約書に保安業務担当者を明確にする旨

が記載されており、かつ、保安業務担当者等の氏名及び生年月日並びに主任技術者免状の種類及び番号が委託契約書の別紙等で定められていることを要することとする。

(委託契約書に明記された者による保安管理業務の実施等)

(5) 規則第53条第2項第5号の「電気工作物の工事、維持及び運用の保安に関し、設置者及び委託契約の相手方の相互の義務及び責任その他必要事項が委託契約に定められていること」は、次に掲げる全ての事項を委託契約書等から確認できることとする。

① 外部委託に係る自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の確保を、次に掲げる全ての基本原則に従って行うこと。

イ ダム水路管理技術者又は保安業務担当者等(以下「ダム水路管理技術者等」という。)が、保安規程に基づき、保安管理業務を自ら実施する。

ロ 設置者が、事業場において保安管理業務を行う者と面接等を行い、その者が委託契約書に明記されたダム水路管理技術者等であることを確認する。このため、ダム水路管理技術者等が、事業場における保安管理業務を行う際に、その身分を示す証明書により、自らが委託契約書に記されたダム水路管理技術者等であることを設置者に対して明らかにする。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

ハ 設置者が、保安管理業務の結果についてダム水路管理技術者等から報告を受け、その記録(当該業務を実施したダム水路管理技術者等の氏名を含む。)を確認及び保存する。

ニ ダム水路管理技術者等が、自家用電気工作物の技術基準への適合状況を確認するため、工事期間中の点検、月次点検及び年次点検(主として発電設備を停止状態にして行う点検をいう。以下本項において同じ。)を行う。

ホ ダム水路管理技術者等が、工事期間中の点検、月次点検、年次点検、6カ年点検、不定期点検又は臨時点検の結果から、技術基準への不適合又は不適合のおそれがあると判断した場合は、修理、改造等を設置者に指示又は助言する。

② 月次点検を、次に掲げる要件の全てに従って行うこと。

イ 外観点検を、(イ)に掲げる項目について、(ロ)に掲げる設備等を対象として行う。

(イ) 点検項目

(a) 水力設備の亀裂、変形、腐食、摩耗及び劣化等の状況

(b) 水力設備等の漏水及び湧水等の異常の有無

(c) 水力設備の損傷等を引き起こすおそれのある事象として周辺地山の崩壊及び崩壊のおそれの有無

(ロ) 対象設備等

(a) ダム

(b) 取水口、取水ゲート

(c) 沈砂池

(d) 除塵機、スクリーン

(e) 導水路

(f) 水槽

(g) 水圧鉄管

(h) 水車

(i) 周辺地山

(j) (a) ~ (h) に付属する測定装置及び警報装置並びに (i) の状況を監視するための装置

ロ 上記②イの点検のほか、設置者及びその従事者に、日常巡視等において異常等がなかったか否かの問診を行い、異常があった場合には、ダム水路管理技術者等としての観点から点検を行う。

③ 年次点検を、月次点検に係る②の要件に加え、次のイ及びロに掲げる要件に従って行うこと。

イ 1年に1回以上行う。

ロ 次の(イ)及び(ロ)に掲げる項目の確認その他必要に応じた測定・試験を行う。

(イ) ダムの可動堰、取水ゲート等の可動部が正常に動作すること。

(ロ) 取水ゲートを閉めることにより、発電用水が遮水され、水車及び発電機が正常に停止すること(入口弁が正常に閉止することを含む。)

④ 6カ年点検として、露出した水圧鉄管の板厚測定を6年に1回以上行うこと。

⑤ 不定期点検として、露出した水圧鉄管の振動測定を必要に応じ行うこと。

⑥ 臨時点検として、台風、豪雨、地震、雪等の発生後の水力設備の点検を必要に応じ行うこと。

⑦ 工事期間中は、上記②イに定める外観点検を行い、自家用電気工作物の施工状況及び技術基準への適合状況の確認を行うこと。

⑧ 事故又は故障発生時に、次のイからニまでに掲げる処置を行うこと。

イ 事故又は故障の発生や発生するおそれの連絡を設置者又はその従業者から受けた場合は、ダム水路管理技術者等が、現状の確認、取水停止等に関する指示を行う。

ロ ダム水路管理技術者等が、事故又は故障の状況に応じて、臨時点検を行う。

ハ 事故・故障の原因が判明した場合は、ダム水路管理技術者等が、同様の事故・故障を再発させないための対策について、設置者に指示又は助言を行う。

ニ 報告規則に基づく事故報告を行う必要がある場合は、ダム水路管理技術者等が、設置者に対し、事故報告するよう指示を行う。

(連絡責任者の選任)

(6) 規則第53条第2項第5号の「その他必要事項」は、規則第52条第3項の承認を受けようとする者が当該事業場について、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安のため必要な事項を委託契約の相手方に連絡する責任者が選任されていることとする。

(事業場への到達時間)

(7) 規則第53条第2項第6号中の「遅滞なく到達」とは、水力発電所が同一水系又は近傍水系にあり、かつ、2時間以内に到達することを要することとする。

(過疎地域等の自家用電気工作物に対する措置)

(8) 申請に係る自家用電気工作物が過疎地域、離島振興対策実施地域又は離島に設置される場合には、当該申請の審査に当たっては保安管理業務の円滑かつ適切な実施に支障が生じないよう配慮することとする。

6. 規則第52条第4項ただし書の承認は、次の基準により行うものとする。

(1) 電気主任技術者に係る規則第52条第4項ただし書の承認は、その申請が次に掲げる要件の全てに適合する場合に行うものとする。

なお、兼任させようとする事業場若しくは設備の最大電力が2,000キロワット以

上となる場合又は兼任させようとする事業場若しくは設備が6以上となる場合は、保安業務の遂行上支障となる場合が多いと考えられるので、特に慎重を期することとする。

① 兼任させようとする事業場又は設備が電圧7, 000ボルト以下で連系等をするものであること。

② 兼任させようとする者が兼任する事業場（この②において「申請事業場」という。）が次のいずれかに該当すること。

イ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場の事業用電気工作物を設置する者の事業場

ロ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場の事業用電気工作物を設置する者の親会社又は子会社である者の事業場

ハ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場の事業用電気工作物を設置する者と同一の親会社の子会社である者の事業場

ニ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場又は既に兼任している事業場（このニにおいて「原事業場」という。）と同一敷地内にある事業場であって、当該申請事業場の事業用電気工作物の設置者及び当該原事業場の事業用電気工作物の設置者（このニにおいて「両設置者」という。）が次に掲げる要件の全てを満たすもの

（イ） 両設置者間において締結されている1.（1）①又は②の契約等において、規則第53条第2項第5号に規定された事項（点検頻度に関するものを除く。）に準じた事項が定められていること。

（ロ）（イ）に定める事項を、当該申請事業場及び当該原事業場に勤務する従業員その他の関係者に対し周知していること。

（ハ） 保安規程において、（イ）に定める協定を遵守する旨を定めていること。

③ 兼任させようとする者が、第1種電気主任技術者免状、第2種電気主任技術者免状又は第3種電気主任技術者免状の交付を受けていること。

④ 兼任させようとする者の執務の状況が次に適合すること。

イ 兼任させようとする事業場又は設備は、兼任させようとする者が常時勤務する事業場又はその者の住所から2時間以内に到達できるところにあること。

ロ 点検は、規則第53条第2項第5号の頻度に準じて行うこと。

⑤ 電気主任技術者が常時勤務しない事業場の場合は、電気工作物の工事、維持及び運用のために必要な事項を電気主任技術者に連絡する責任者が選任されていること。

（2）ダム水路主任技術者に係る規則第52条第4項ただし書の承認は、その申請が次に掲げる要件の全てに適合する場合に行うものとする。

なお、兼任させようとする水力発電所のダムの基礎地盤から堤頂までの高さが十五メートル以上となる場合又は兼任させようとする事業場若しくは設備が6以上となる場合は、保安管理業務の遂行上支障となる場合が多いと考えられるので、特に慎重を期することとする。

① 兼任させようとする者が兼任する水力発電所が次のいずれかに該当すること。

イ 既に選任されている水力発電所と同一の設置者が設置した水力発電所

ロ 既に選任されている水力発電所の設置者の親会社又は子会社が設置した水力発電所

ハ 既に選任されている水力発電所の設置者の親会社の子会社が設置した水力発電所

② 兼任させようとする者が、第1種ダム水路主任技術者免状又は第2種ダム水路主任技術者免状の交付を受けていること。

- ③ 兼任させようとする水力発電所が、既に選任されているものと同一水系又は近傍水系にあり、かつ、兼任させようとする者が常時勤務する事業場又はその者の住所から2時間以内に到達できるところにあること。
 - ④ 兼任させようとする者が兼任する水力発電所には、電気工作物の工事、維持及び運用のために必要な連絡体制が整備されていること。
- (3) ボイラー・タービン主任技術者（規則第52条第1項の表第5号の事業場に選任されるものに限る。）に係る規則第52条第4項ただし書の承認は、その申請が次に掲げる要件の全てに適合する場合に行うものとする。
- ① 兼任させようとする者が兼任する事業場が次のいずれかに該当すること。
 - イ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場を設置する者の事業場
 - ロ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場を設置する者の親会社又は子会社である者の事業場
 - ハ 兼任させようとする者が常時勤務する事業場を設置する者の親会社の子会社である者の事業場
 - ② 兼任させようとする事業場又は設備は2以下とすること。ただし、兼任させようとする事業場又は設備が既に選任されているものと同一の又は隣接する構内にある場合は、この限りでない。
 - ③ 兼任させようとする者が、第1種ボイラー・タービン主任技術者免状又は第2種ボイラー・タービン主任技術者免状の交付を受けていること。
 - ④ 兼任させようとする事業場は、兼任させようとする者が常時勤務する事業場から30分以内に到達できるところにあること。ただし、申請に係る者が兼任する事業場の発電設備が休止中（事業場内の全ての発電設備が運転を停止し、かつ、事業場内に発電のための燃料が残されていない状態をいう。⑤において同じ。）であって、運転再開を目的とする工事、点検等が開始されるまでの期間については、2時間以内に到達できるところにあればよいものとする。
 - ⑤ 兼任させようとする者が兼任する事業場には、発電設備の工事、維持及び運用に関する保安を確保するための体制が整備されているとともに、必要な事項をボイラー・タービン主任技術者に連絡する責任者が選任されていること。ただし、兼任させようとする者が兼任する事業場の発電設備が休止中であって、運転再開を目的とする工事、点検等が開始されるまでの期間については、この限りでない。
- (4) 1. (3) から (5) における規則第52条第4項ただし書の承認については、(1) から (3) の規定を準用する。

附 則（20130107商局第2号）

この規程は、平成25年1月28日から施行する。

なお、平成17年3月28日付け「主任技術者制度の解釈及び運用（内規）」（平成17・03・22原院第1号）は、平成25年1月27日限り廃止する。

附 則（20130619商局第1号）

この規程は、平成25年6月28日から施行する。

附 則（20130920商局第1号）

この規程は、平成25年9月27日から施行する。

附 則（20140320商局第1号）

この規程は、平成26年3月31日から施行する。

附 則（20140324商局第1号）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（20140925商局第2号）

この規程は、平成26年9月30日から施行する。

附 則（20150406商局第5号）

この規程は、平成27年4月23日から施行する。

附 則（20160301商局第1号）

この規程は、平成28年3月22日から施行する。

附 則（20160330商局第2号）

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（20161005商局第2号）

1. この規程は、公布の日から施行する。ただし、4.（5）③（へ）の規定は、平成28年12月1日から施行する。
2. 前項ただし書に規定する規定の施行の際現に有効な保安全管理業務の委託契約については、4.（5）③（へ）の規定は、なお従前の例による。

附 則（20161208商局第1号）

この規程は、平成28年12月26日から施行する。

附 則（20170809保局第2号）

この規程は、平成29年8月24日から施行する。

様式 例

ダム水路主任技術者講習修了証

ふりがな 受講者氏名		生年 月日	年 月 日生
現住所		(TEL.)	
他に連絡先がある 場合その名称及び 所在地	名称	(TEL.)	
	住所		
科目	範囲	講師の氏名 (要件)	受講期日
水力発電設備の保 安に関する法令	1. 水力発電設備の安全規制の概要 2. ダム水路主任技術者制度の概要 3. 電気関係報告規則について		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
水力発電所の仕組 み・技術基準	1. 水力発電の仕組み 2. 発電用水力設備に関する技術基準を定め る省令、発電用水力設備の技術基準の解釈		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
水文・気象	1. 水文・気象と防災 2. 水理学基礎		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
コンクリート構造 物(ダム、導水路 等)	1. 設計、解析(耐震設計を含む。) 2. ダム挙動の把握と漏水管理 3. 点検、計測、診断		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
鋼構造物(水門、 ゲート、水圧鉄管 等)	1. 設計、解析(振動解析を含む。) 2. ゲート操作、バルブ操作 3. 点検、計測、診断		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
水力発電所の設計 、演習、	1. 水力設備の設計 2. 設計演習		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
ダム水路主任技術 者の保安 監督業務	1. 巡視・点検及び検査の方法 2. 不良箇所の発見と処置 3. 記録と径年監視 4. 災害・事故の対応		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)
現地実習	1. 巡視・点検及び検査の方法 2. 不良箇所の発見と処置 3. 水力設備の計測、診断		年 月 日 時 分 分 ～ (時間)

上記の者は、主任技術者制度の解釈及び運用(内規)2.(2)②ハに基づく講習を修了したことを証明
します。

年 月 日

証明者 所在地

(TEL.)

名称及び

代表者の氏名

印

- 備考
- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 - 2 証明者の氏名を記載し、押印することに代えて、署名することができる。この場合において、署名は必ず本人が自著すること。
 - 3 講師の要件については、交付を受けたダム水路主任技術者免状の1種若しくは2種、又は電気工
作物検査官の職にあり若しくはあった者の別を記載すること。